

ゆるゆるも

第拾壹卷

第參號

フレール會

第拾壹卷第參號目次

○幼稚園に關する諸問題(一) 佐々木吉三郎  
△幼稚園の任務

○注意の話(承前) 元良勇次郎

○自己活動の原則に就て 和田實

○小兒の傳染病(二) 唐澤光徳

○幼稚園に於ける圖畫 藤五代策

○桃の花 保井コノ

○梅 小寺彌彦

○家庭叢話(續) 光藤ふで

○母の不在

○新入園兒の取扱方(一) 雨森 劍

(一) やさしく、 折井彌留枝

(二) 色分けの徽章 鈴木マサ

(三) 自然を待ちて 鈴木マサ

○談話資料 松田清

△金ちんのお魚 同

△お山の火事 同

○雜報

フレイベル會規則

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タルモノニシテ本會ノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ會員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保育參考品幼兒成績物展覽會等ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス

一 但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ

一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス

一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス

一 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス

一 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 會務ヲ總理ス

幹事 若干人 會長ヲ輔佐シテ會務ヲ掌理ス

評議員 若干人 會長ノ指揮ヲ受ク會務ヲ分掌ス

第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第九條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス

第十條 本會ハ必要ニ應ジテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコトアルベシ

第十一條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

購讀の申込

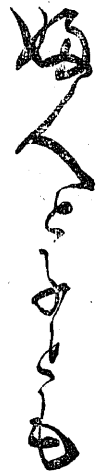
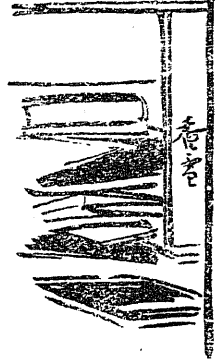
(振替口座東京 一七二六六番)

本誌を購讀なされるとき方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ月分をま

とめて振替貯金へ御拂込下されば直に雜誌を發送致します。

◎一册郵税共金拾一錢 ◎六册前金郵税共六拾錢

◎拾二册同金壹圓貳拾錢 ◎郵券代用一割増



## 第拾壹卷第參號

### 幼稚園に關する諸問題

東京高等師範學校教授 佐々木吉三郎

左の一篇は佐々木教授が特に本會の爲に御談話下された筆記であります。此の廣汎なる問題に對し、爾後六七回に涉つて續いて御話下さる筈であります。(編者)

私は、幼稚園に經驗のない全くの素人でありまして、幼稚園の研究を特に委しくして見た事ありませんから、専門の方々には参考になりさうな事をお話する事の出来る筈もありませんが、だ、素人の幼稚園談としてお讀み下さる事を希望いたします。

幼稚園は必要であるか、なきかと云ふ問題もあるやうですが、まあ、田舎の家庭のやうに、両親の外に、祖父母又は曾父母等もあり、大勢の家族が一家をなして居る場合には、小學校に入學する以前の幼兒を相手として、適當な世話をする人に事かきませぬし、また、子供が遊ぶにしても、田もあり、畑もあり

野もありと云ふやうなわけで、特別の建物のある處に通うてゆかなければならぬといふ必要もありませぬから、そんな事情の處では、幼稚園といふものはなくとも濟むものであらうと私は考へます無論立派な、適當な幼稚園のあるにこした事はなけれど、なくとも、濟むものであらうと思ふのであります。ところが、やゝ大なる町とか、市とか云ふ處になつたり、もしくは、たとひ田舎でも、大製造所の附近で、大勢の労働者が、殆ど、師團か、町かのやうな状態を形づくつて居る所などでは、周囲の事情が甚だ不健全で、建物が密集して、子供等の遊ぶ場所もなければ、空氣が不潔であり、外部には悪影響を與へる誘惑物に富んで居り、其他、子供等が、草とか、木とか、虫とか鳥とか云ふ自然物に接する機會がなくて、始終狭く居るしい人込みの中、建物等の中に小さくなつて居なければならぬと云ふやうな處では、どうしても、相當な位置に、相當な建物をこしらへて、庭

もあり、遊び道具もあるといふやうな中で、子供のもつて生れた天性を順當にのばしてやるといふ事が必要になつてきます、また、家庭の事情から云うても、大都會になればなるほど、昔流儀の、一家眷族悉く共に住んで居るといふ家庭は少くなる、祖父母が田舎に居るとか、兄弟住所を異にして居るとか云ふ事が多くあります、また、製造場等になつて見ると、多くは、日中は、夫婦共に勞働に忙はしくて、子供の世話は到底出来ないといふやうな有様であるから、どうしても、幼稚園は缺くべからざる教育機關であるといふ事になります。そこで、幼稚園の必要なる事は、大體に、實際上から考へられるのでありますが、しからば、一歩きりこんで、多少委しく、如何なる任務を果すを以て、幼稚園の仕事、もしくは、目的とすべきものであるか、學校といふものと比べて、どんなに違ふかといふやうな點が、明かにならなければな

りませぬ。まづ、最も消極的な方から云つて見ると、まだ無勘辨な、しかも、そろ／＼腕白に近くなつてくる三四五六歳の幼児を、危険界から遠けるといふ事が一つの任務でなければなりません。しかし、それは、極めて消極的の目的の一つであつて、怪我をさせずにおけば、幼稚園の任務は盡きたものかと云へば、さうは云へまいと思ふのであります。しからば、積極的に、どんな任務があるか、獨逸の博士ライン氏はかう云ふ事を云ふて居ります。「幼稚園の主要目的は、子供を教授する」と云ふ事ではなくて、寧ろ、子供の内部に潜んで居る衝動を發達させ、指導し、固定するにあり」とかう申立て居りますが、つまり、子供の衝動を本にして、なるべく自然に、順當にのびさせると云ふのが適當であつて、學校と趣を異にするのは此點にあると思ひます。即ち幼稚園では、重きを、兒童の天性において、そのもつて居る力、氣質、性癖等に從ひて、差支ない限りは、なるべく、そ

れを重んじて、まづ、一通り發達させるといふ事が大切であります。即ち、幼稚園は、子供本位で學校は、それに對すると、材料本位とでも云ひ得るだらうと思ひます。學校では、これだけの事を教へやう、教へねばならぬと云ふ方が、だん／＼あらはれてくるが、幼稚園では、そんなに、一定の仕事の子供に課する必要がありません。寧ろ、子供が、嬉々として、愉快に遊んで居れば、それで、大體よろしいのであります。無論、かう申したからと云つて、小學校は、兒童の性質を全く省みる必要がないとか、幼稚園は、兒童の御機嫌を取つて居さへすればよいといふのではありませぬが、どちらに重きをおくべきかと云へば、前申したやうな大體の區別が立てられると思ふのであります。フレーベルなども、始終、かう云ふ主意をいたる處に述べて居ります。「余は、あらゆるものを、子供から學んだ。そして、なほ、子供から學びつつある。余は、子供等の生活から、自分に感受し

たものを、再び、子供等にかへすだけの仕事をし  
て居る」と申して居ります。云ふ心は、幼稚園を  
指導するものが、斯くあらざるべからずとか、斯  
くあるべきであると云ふ自分の了簡に執着して、  
兒童に強い事があつてはならぬと云ふ意味で、  
その他の場所においては、かういふ事をも云ふて  
居ります。「子供が大きくなるのには、外のものは  
要らないが、自分で働らき、自分で作り、何事も、  
自ら好んで、その事に當る時に限る」と此言も、  
つまり、如何に、フレイベルが、子供の自主自動  
に重きをおいたかと云ふ事を見るに足るべきもの  
であらうと思ひます。

以上述べました所は、幼稚園の目的が、大體の風  
として、小學校など、違ふといふ點を申したも  
のではありませんが、我れくは、も一歩深く進んで、  
幼稚園が、子供等の體育上、智育上、徳育上、美  
育上、如何なる任務を有して居るかを一考して見  
なければならぬと思ひます。

一、體育

私は、幼稚園に於ける主なる仕事は、體育にある  
と云ふ事を固く信じます。智育も、徳育も、美育  
も、體育が出来てからの事で、また、子供が、も  
つと大きくなつてからの仕事とも見る事が出来ま  
す。體育は、さういふわけにゆきませぬ。學校期  
以前の子供は、何が仕事かと云へば、喰つて、遊  
んで、眠つて居る事で、つまり、身體を丈夫にする  
のが仕事であります。幼稚園は、先き程申した通  
り子供の相手をして、監督する老人や何かのない  
家庭の代りに、云はい守りをしてやるやうな性質  
のものでありますから、よけいな事を授けたり、  
なんかして、小さな大人をこしらへたり、神經過  
敏な子を製造したりせぬやうに、なるべく、身體  
の自然な發達をするやうに注意する事が肝要であ  
らうと思ひます。それで、幼稚園の重なる仕事は、  
子供等をして、心から楽しく遊ばせるといふ事  
でなければなりません。遊戯とか、作業とか云ふも

のも、學校に於ける課業時間のやうに、教師がむやみに、ひきまはさなくてもよろしい。もし、庭も廣く、建物も廣かつたならば、なるべく干渉をせず、自由に遊ばせるのが結構であつて、それが出来ないのは、全く庭が狭かつたり、建物が小さかつたりする爲めに、大勢の子供を、そこに放任しておいただけでは、三十分や、四十分は、どうにか遊んで居るけれど、もう、二時間目か、三時間目には、倦きてしまつて、遊びやうがなくなるといふ所から、娼母の方々も、已むを得ず變化をつける爲めに、今度はお話、今度は折紙、今度は書をかくなど、工夫をするので、もし、山か、野原があつて、そこにおつぱり出して、勝手に、花を摘むなり、蝶を追ひまはすなり、鬼ごつこをするなり、かくれんぼをするなり、させて、晩まで、も遊べるやうになつたら、それは、理想的幼稚園であります。理想は寧ろそこにあるのであります。彼の美術學校の生徒でもこしらへたやうな

組み紙とか、切り抜きとか、いろいろ奇麗な成績品を並べて、これが、幼稚園の立派な所で御座るなど、云ふのは、随分、その任務をはき違へたものと云はなければならぬ。遊戯室などを見ても、塵のたつやうな所に、監獄の窓でもあるかのやうな、僅かな日光の入る小窓のみあつたり、また、床板には、幾何學の稽古の筆の跡を見るやうに、圓や、四角や、十字形などが、やたらに引いてあつて、兒童は、その筋の上をあるかなければならぬといふやうに、まるで、甘日鼠の調練か、山がらの藝當でもさせるやうな事をして、子供の自由活動を束縛するなどは、よほど考へなければならぬ事でありませぬ。私は、なるべく自然な遊戯、なるべく自然な作業をさせて、その間に、身體をだん／＼に丈夫にし、將來、勞働を愛する國民になるやうに、また、練れた身體を以て、一舉一動、きび／＼と小氣味のよい活動の出来るやうに、姿勢も正しい、とことなく、のんびりして居るとい

ふ子供で、寒暑の氣候にも抵抗し得る、血色のよい、活き／＼とした子供を仕立てるのを理想としたいと思ふのであります。

## 注意の話 (承前)

文學博士 元良勇次郎

### (六) 讀書と注意

(イ) 注意集中と其の背景

(ロ) 讀書の場合

注意の集中といふことは、單に精神作用のみで説明することは出来ぬ。其の背景たる生理状態が大に影響する。されば注意して讀書するにしても生理状態の變化によりて早く解し得るときは遅き時との別もあり、亦注意のよく集るときと、集りの鈍きときのあるのは明かである。次に讀書の場合に於て、其の生理的状態の影響が其の氣分に關係してそれから作用に鋭鈍を生ずると云ふこと

の全く外に、尙ほ次の如き二ツの場合がある。それは現に讀みつゝあるときの事柄を前以て知つて居るといふ場合は餘程早く了解して來ることである。又一ツは何回も重ねて讀んで居れば次第には了解して來ることである。一讀よりも再讀、再讀よりも三讀と次第に難解の文章も了解することが出来る様になるものである。讀書百回意自通すと云ふことは虚でないのである。讀書百回意自通すと云ふことは虚ではない。

### (七) 背景

背景といふは前述の如く一面に於て生理的作用が精神的注意作用に及ぼす影響を名づけて云ふたので、教育上に於ては最も此の修練に力を用ひなければならぬことである。如何によく教授し訓練して行かうとおもつても、單に精神的方面のみの教授訓練では何等の効はないのである。そこで私が拵へた注意練習器は實は其の用に立てんが爲めである。然るに世の人はあの器械を誤解して、單



に低能兒ばかりに用ふべきものと考へられて居るけれど、それは大なる誤りで、私が彼の注意練習器を拵へた目的は第一に注意作用を律的に確實ならしめんが爲めと、第二に變化の中に統一を有たしめんが爲めである。あの練習に依りて不活潑の者が活潑になり不整頓の者が整頓する習慣を得て居る決して低能兒特設の器械でなく一船教育に應用させたいのである。

(八) 研究と注意

(イ) 注意の分配

(ロ) 研究と其の背景 (疑念と假説)

(ハ) 其の證明法

凡て何でも研究といふときには、必ず注意作用が活動しなければならぬのは分つたことであるが、中にも注意を單に一點に集むるのみでは足らないので注意の分配といふことが大なる必要條件である。例へば風の吹くのを見て直ちに氣象の事を考へ、或は蜂の飛ぶのを見て直ちに博物學上の研究

を重ねて行くといふが如き皆氣を配ることである次に研究には決して直ちに信じきつて仕舞ふことは禁物である。信じきるといふことはかぶれることで、物にかぶれるは所謂とらはれることである、それでは眞の研究は決して出来るものではない。即ち常に反對に疑念を起して行くと云ふことが何の研究にも最も必要である。それと共に假説を立てるといふことが又大切な事である。疑念を起しては反對の方面に向つて試験して見て行き、次第に其の疑念の差し挿むべき餘地がなくなるに至つて初めて確乎に證據立てらるべきであると共に、一方には常に一つの假説を立て、其れに向つて研究して行く、即ち或る所期の據るべき方向を假りに定めておいて、研究を進めることが必要である。例へば千里眼等を研究するには一面に於ては大なる疑念の下に試験を進めて行き又一面には假説的目的を定めて研究を進めて行き又一面に於ては後始めて眞相を明にすることが出来る。

譯である。詰まり一面には何處までも疑念を起して、反對の實驗を試み、一面には假説を立て、其の方向に進んで試験を行ひ、然る後ち明々白々一點の疑念なく確實なる實驗的論據の下に於て科學的證明が附せらるゝ次第である。

(九) 社會上の觀察と注意

(イ) 注意の分配

(ロ) 社會觀察の背景

(ハ) 思想の起問作用

(ニ) 思想の撰擇作用

凡て事柄の研究は人格をば抜きにして取りかゝらねばならぬ。然るに何分にも社會といふものは人格を有した人間の事であるから餘程其の事柄の研究には骨がおれる譯である。然かし研究の方法に順序を立て、考へて見れば、先づ次ぎの通りにしたらよからふとおもふ。第一注意の分配は何の研究でも必要なので社會研究などには最も必要である。第二に其の背景であつて吾れも人もみな感情

を有して居る所の動物で其顔の各人各異なるが如く又各人各異の感情を有するものなれば、其の背景も隨つて異つて居るのである。故に其の異なる背景を能く觀察しなければならぬ。

次に最も必要なるは思想の起問といふことである。研究といふものは待つて居ても外部から流れ込んで來るものではない。何處までも自發的目的を立て、進むべきである。即ち吾れ自ら問を發して心中にそれ／＼準備をしてかゝらねばならぬ。準備の確實不確實に依りて研究は進むと否とに分るのである。實に此の起問作用といふことは大切なことである。此の作用が確實に起らねば研究は一つも進歩しないものである。次には此の起問作用を起すと同時に思想の撰擇といふことが必要である。充分に撰擇して其の最も適切なる方面に向て研究を重ねて行くべきものである。種々の起問はあつても確實に至當なる事項が撰定して、順路を踏んで行かねば、彼岸には達することは出来ぬ。

(一〇) 交際と注意

(イ) 讀心作用

(ロ) 同情と反情

(ハ) 禮法

所謂讀心術といふ意義ではないが、凡て社會に立ちて人と交際して行くには、其の相手の人の心を察知するといふことが必要である。それには先づ自己を省みることが大事である。即ち自己の經驗(苦しんだ事、楽しんだ事)によりて推察することが第一である。併かしそれも、自分に僻念があつてはならぬ。何處まで虚心に自己の經驗上より推して察せねばならぬ。兎角人生といふは複雑なものであるから一々論理的に成り立つては居らぬ。理窟以外の事のみが多いのだからこれに處して行くには、何處までも經驗を基として判じて行かねばならぬ事が多いのである。

次ぎには同情といふことが必要である。同情を以て人に接し人に交つて行けば自然と其の人を知り

人も亦吾を知つて呉れるものである。例へば犬好きなる人には犬は自然と能くなづくものである。言語は通せんでも何等か犬にも感ずる所があるに相違ない。況んや人と人との間に於てをや。尤も同情心を以て接して皆が皆に直ぐ様相親しむ様にはならぬけれど終りには必ずしも吾れを知り吾も人を知りて、互に融和するものである。反情的意思を以ては到底社會に於て立つて行かるゝものではない。

然らば同情のみで社會が渡らるゝかと云ふに、さうも行かぬ。複雑なる社會には所謂通り一邊といふが如き交際も多々ある。それには先方の感情を害せない程度の交際をせねばならぬ。それが即ち禮法であつて、虚禮は何の効もないが、斯の如き意味の禮法といふものは最も必要なことである。

(一一) 精神修養と注意

(イ) 僻念消滅

(ロ) 悟道の境

(一) 注意は病的現象なりとの説  
(二) 注意と拘泥との別

精神修養上如何なることに注意すべきかといふに第一僻念を去るといふことである。所謂佛教でいふ所の妄念を去るといふことが必要である。僻念を持つ事は人との交際上に於ても最も忌む所であるが、自己修養上に於ても最も邪魔物である。僻念のある人は當底宇宙の眞理を解することが出来ぬのである。此の僻念を消滅することが出来て、始めて所謂悟道の境に入ることを得るのである。悟道といふことは色々に云ふが先年永平寺の役僧の言ふたことで能く徹底して居るとおもふ言がある、それは悟道とは「心中更に滞りのないこと、それも川に清らかな水の流るゝが如しだ」といふたがこれはよい説明だと思ふ。兎角色々な僻念があつては心に常に何か停滞して居る様でスラ／＼した氣持になることは出来ぬ。それから佛蘭西のリポーといふ人は斯う云ふて居る「人の心の健全

なといふことは心にサラ／＼滞りのないことだ」と、つまり同じ意味である。併かしリポーが注意といふことを下げずんで「注意は元來病的現象なり」といふ説を立て、居るのは間違つて居る。或は一應は如何にも尤もの様に聞ゆるけれど、能く考へて見れば、注意といふこと、僻念といふことを混同して居るから、そんな説を立てるのだとおもふ。勿論注意といふことは滞ることだ、事物に一種の拘泥をすることではあるけれど、僻念とは違ふのである。山の中にでも住んで居て、一人木實草根でも背めて居るのなら兎も角も、此の複雑なる社會的生活には誰れも色々の俗務がある。此の俗務の中に於て、更に何等の拘泥することなく、即ち注意することなく生存せうとした所がそれは到底出来る事ではない。尙ほ且つ吾々が一つの學問を研究するといふ時には何處までも執念に注意することが必要である。即ち解決を得るまではあくまでも注意を重ねて行かねばならぬ。

併し一旦道理が明になつてからは、更に拘泥するの必要はない。道理が明になつても矢張り拘泥して停滯して居るといふことになる、即ちそれが僻念である。即ち正當な注意は修養して何處までも發達させねばならぬが、僻念を去る能はずして、一所に何日まで停滯して居る様子は、修養上大に避けて行かねばならぬ事である。

(心理學通俗講話會講演  
大要 文責記者)

## 自己活動の原則に就いて

和田 實

子供と云ふものは自ら働く爲めに益伶俐になり、益丈夫になつて、所謂、發達を遂げるものであると云ふことは自己活動の原則と云つて幼児教育上實に大切な理窟であるが、物は凡べて過ぎたるは及ばざるに如かずで、兎角一方に足り過ぎて困るものである。此自己活動の原則なども、頗る重大

なる原則には違ひないが、之を奉ずる人の心々に因つて、或は飛んでもない取り違ひがないとも限らぬ。殊にフレーベルの云つた言葉にも「子供の生活と云ふものは自我を發現することより外にない。彼の生活は種々の材料を以て自己の内心の力と云ふものを顯はすことより他にないのである」と云ふことがあるので、世の多くの幼児教育者は子供が何等かの發表的活動をすることを喜んで、積木、色板、豆、粘土など種々の材料を興へて、頻りと彼等の工夫や細工を奨励して居る。勿論、是等は奨励すべき筋のものではあるが、併し翻つて、果して是のみで幼児教育と云ふものが完きものであるか何うかと云ふことを一考して見ると其處に、多少戒めねばならぬ點の存在して居る様に思はれる。

元來フレーベルは十八世紀舊風一洗の時代を受續いで、盛に新思想の横溢し始めたる十九世紀の中國に生れたが爲めに、其教育上の意見も自ら中世

紀に於ける人爲の注入主義の教育を排して、頗る  
 自然主義を主張したもので、其「人の教育」の中  
 にも「教育の目的とする所は、子供の内心に澤山  
 智識を注入して行くよりは寧ろ内心から多く出さ  
 せることとでなければならぬ。吾人は實に子供を發  
 達させ教育するとは云ふものゝ實際は子供を閉鎖  
 し注入しつゝある。彼等の心を開發し、其意志を  
 發達させて居ると云ふよりは寧ろ之を鑄造にか  
 かつて居ると云ふ可きである」と云ふ様なことを  
 云つて、舊來の注入的教育を嘲けつて居る。フレ  
 ーベルの主義を賛成して斯かる思想を受け續いで  
 居る人は自然、唯々子供を働かせ、工夫させ創造  
 させることで其教育は出來上るものとのみ、思ひ  
 込むで居るのは誠に無理もないことである。從つ  
 て、從來の幼稚園が、ヤレ積木だの、ヤレ織紙だ  
 の、ヤレ縫取、ヤレ貼付と工夫と細工を無暗に強  
 いたり。或は紙と鉛筆で、ヤレ書け、ソレ書けと  
 責めかけて居つたのは、寧ろ怪しむ可きことでは

ないのである。否、自己活動が幼児教育上の大原  
 則である以上は是等の仕事は決して悪いことでは  
 ない。吾人とても決して之等の仕事の價値を輕ん  
 ずるとか、或は之等の仕事を幼児教育上から排斥  
 しやうとかするものではない。併しながら、是等  
 のみで幼児教育は果して完成し得るや否やと云ふ  
 ことになる。我輩大に疑なき能はずである。成る  
 程、工夫とか細工とか描畫的發表とか云ふことは  
 自己活動の眞髓たるものには相違ないが、併し、  
 自己活動と云ふものは單に是丈のものであらうか  
 是が吾人の大に疑はんと欲する所のものである。  
 たねの種のない手品は遣かへぬと云ふことがあるが、  
 如何に子供が發表することを好むとても、果して  
 種のないものを創造するであらうか、子供が電  
 車を積み汽車を並べるのは、果して子供の空虚な  
 る腦髓から忽焉として生れ出たのであらうか、其  
 他豆細工する所のものでも、粘土で作る所のもの  
 でも果して、子供は見もし聞きもしなかつたもの

を、不意に作り出すのであらうか。云ふ迄もなく是等のものは皆一度子供の経験内に捕へられたもので、現に子供の脳中に活躍しつゝある所のものであるに相違ない。して見ると、フレーベルの所謂「自己を活動せしめよ」と云ふことも單に内心の活動を具體的事物として發表せしめよとのみ解釋しないで更に一步を遡つて

一、自己をして先づ適當なる印象（觀念）を得

しめよ、

二、而して徐ろに之を具體的事物に發表せしめ

よ、

と解釋したのである。單に自己活動と云ふときには兎角第二の意味にのみ解釋されて、頓と第一の段階を閑却するの通弊がある。假令フレーベルが、此點を充分に考慮しなかつたと云へ夫れは時世が必要を認めなかつた爲めとして、後の斯業を繼ぐもの迄等しく之を輕んじてはなるまいと思ふ。

實際一つ子供を引續いて一二年觀察して見ると云ふと彼等が如何に收得して然して後に之を發表するかと云ふ前後相照應する所の關係が實に著しく認められるものである。子供の發表には種々の形式がある。然るに其形式たるや、何れも自己の夫れ以前に收得したる形式に因るもので、決して因る所なく、基く所なき過然のものではないのである。子供の言語を覺ゆる具合を注意して觀察してみると此前後の關係は一層能く理解することが出来る。二才位の子供が始めて言語を操る迄には實に長く長い間、之を耳に聞き慣れて、而して後にするものである。決して今日始めて聞いて明日之を發言するものではない。凡べての動作又皆之に等しきものである。彼大きな子供が、今見たばかりの摸範を直に真似ることが出来るからとて、幼兒も之と同様であると考へたら飛んでもない間違である。又別の方面から子供の遊戯を觀察して見ると云ふと、子供は成る程、細工や工夫を喜んで居

る。種々な材料を自己の自由に取扱ふことに因つて、或ものを作り上げることを楽しみとして居るが之と共に一方には新奇な経験を歓迎し新智識の輸入に向つて非常なる興味を持つて居るものである。是は少しく子供と一所に生活したものが、常に驚く所のものである。

以上の諸事實を総合して考へて見ると子供の自己活動と云ふものは發表的創造的に働くと共に大に收得的方面にも働くものであると云はねばならぬ既に、自己活動には此兩方面があり、而して其發表的活動が、大に收得的活動に負ふ所あるものとしたならば、幼児教育者は、一方に、従来の幼稚園恩物が、大に勉めた子供の發表的方面に注意すると、同時に、他方には、如何なるものを、收得させて遣る可きか、如何なる経験を待させて遣る可きか、如何なる事物を見聞させ可きかと云ふことも大に考へねばなるまいと思ふ。是は我輩が初めに來る可き保育事項の最も重要なものとして

彼の觀察及實驗を特に奨勵する所以である。或は觀察たの實驗などと云ふと庶物教授即ち理科教授でもするもの、様に取る人があるが飛んでもないことである。吾人の云ふ所の觀察や實驗はそんな狭いものではない。吾人の所謂觀察實驗とは觀察的遊戯實驗的の遊戯を意味するので、頗る樂しみに満ちたものを云ふのである。子供が靜かに居られぬ位に乗り出して來る所のものである。そして其材料としても單に博物的事物ばかりではない。早い話が大きい子供の體操や唱歌を參觀させたり。或は六ヶしい讀本の教授を見物したり或は大工の働きや鍛冶屋の工場を見に行つたり。或は先生の書畫を物する所や母上のお仕事する所などを拜見したりするのも此中である。是等のものが子供には非常な興味を以て迎へられると共に後日の模倣的發表の材料となつたり、自己練習の形式となつて、つまる所其子供の將來を形づくる要素となるものであるから、幼児教育者は如何に是



等の材料を精選す可きかに就いて大に考慮しなればなるまい。然るに世の多くの幼稚園に於ては

會々觀察又は實驗をするかと思へば遣り過ぎて理科的教授様の問答などをしたたり、然もなければ單

に發表的材料と徒に高尚な模範とを押し付けて、仕事を強制したりして居るのが多い。誠に、子供

の爲めに可哀相なことである。併し、兒童研究に熱心なる世の保姆諸君は遠からずして、此蒙を啓

いて、大に幼兒の幸福の爲めに盡さるゝであらう吾人は速に斯る日の來らんことを望むものである。

要するに幼兒をして充分に活動せしめんとするには彼等をして先づ收得的受領的經驗的觀察的に活動せしめて、感官と筋肉とを求心的に練習せ

しめ、而して徐ろに自由に且充分に之を外部に向つて發表せしむる様努めねばならぬ。斯くしてこ

を始めて、教育は直観より始めなければならぬと主張したベスタロツチの主意にも叶ふ譯で、而

して又自己活動を以て教育の唯一原則としたフレ

ベルの本旨にも副ふ譯である。

## 小兒の傳染病に就いて(二)

醫學士 唐澤充徳

### 風 疹

前の二つに能く似て居りまして、子供が罹つてさう危険で無いのは風疹、又は「かざはな」。是は大抵數へ年の二つから十位の子供に多い傳染病であつて、やはり紅い。猩紅熱のモウ少し色の薄いやうな小さい發疹物が全身に出て來る、是は猩紅熱と誤つて大變に大騒ぎをやることがありますけれども、この方は通常三十八九度位の熱が一日位しか出ない。其の日の發疹物が出ると二日目には無くなるから、一遍は吃驚しますが、すぐ判然します。且此かざはなの方はさう危険なもので無い。猩紅熱と區別するのもやはり一方は發疹物が長く續くが、風疹は短い爲めに直ぐ診斷が出来ます。兎に

角發疹物の病氣の中では猩紅熱が最も恐ろしいものであると云ふことが分れば宜からうと思ふ。

水痘

次が水痘、俗に「みづいも」と言ひますが、是は前の猩紅熱だとか、麻疹程怖い病氣でない。此の爲に生命を亡くなすと云ふことは無いが、之も立派な傳染病である。人から人に向つる時間は十三日から十四日位經つと發する。是は黴菌は分つて居りますが、此の病氣は死ぬやうなことはありません。んから恐しくはありませんが、時に依ると此の後で腎臓炎を起す。その外に氣を付けなければならぬのは、之が生れ立ての赤ん坊詰り病兒の兄弟で、其の弟なり妹なりに二週間位の赤ん坊がある、若し其の赤ん坊に向つると天疱瘡と名付けるものが起る。さう云ふ危険がある爲に之も兎に角注意を要するのであります。

チフテリ

チフテリは昔は非常に恐れた病氣で、馬脾風と

稱へた時代には、此の病氣に罹れば四分の三は大抵亡くなつて仕舞つた位ででしたが、ロエフレルと云ふ大學の教授が、此の黴菌を發見してから彼の有名なペーリングの血清が出来ました。殊に早知り得たチフテリの患者、即ち咽喉に白いものが着いてから二三日少くとも一週間以内に發見することが出来た「チフテリ」は怖い病氣で無い。たい極く小さい所の子供に起りますと云ふとそれが爲に窒息を起したり、又クループと名付ける病氣になつて斃れることが屢々ある。若し怠らずに小兒を注意して居つて早く實扶丁里を知り得たならば、當時は此病はもう恐るゝに足らない所が事實に於てはなかく注意を怠つて随分危険の病狀になつて、我々の所に来るのが少くありません。而かも醫者に診て貰つても、今迄氣がつかれないで居たやうな場合が時に依るとある。此病の診斷法は毫も難しくない。たい咽喉をさへ開け

て見てやれば、素人でも此の咽頭に白い物が着いて居る位ひのことは分らない、譯は無いのであるが、實際になるとなかく、デフテリーに罹つて居るのを知らずに過ごして居るのが多い。私は何時も總ての家庭の人にも勧めますが、茲に貴方々にもお勧めしたいと思ふのは子供を始終取扱ふ以上は、少くとも咽頭だけは見ることをやられたいものだと思ふ。随分中には頑強な子供があつて、我々診に行つても困ることがありますけれども、少くとも咽頭を見て咽頭に白い物とか何とか異常があつたならば直ぐ注意をすると云ふだけのこと、は、子供に關係のある者は必ずやることに定めて仕舞ひたい位、實に必要な事柄であります。此のデフテリーの一、番多い年齢はやはり二年から満一年半位から六年七位に一番多い。之も其の傳染するの患者の其の微菌が咽頭の粘膜に付いてから七日八日経つと起つて来る。初めには通常其の子供が熱の有無に拘らず大變だるがたり、眠り

が悪くなつたり、よく氣を付けると聲が噎れて來て、ゴン／＼犬が吹へるやうな咳をする。時に依ると鼻汁が出て居つて其の鼻汁が非常に汚い。血が混つて居つて塵埃が起つて居るやうな鼻汁を出して居ることがある。時に依ると別に原因も無くして子供が泣くやうなこともある。時に依ると口中が臭くて非常に厭な臭ひのすることがある。さう云ふ風の時に咽頭を開けて見ると若しデフテリーであるとき直ぐ分かる。(標本及び圖を示す)此の標本は大變不出來であります、茲に黄味がかつた白い物が着いて居る。通常扁桃腺にてあるが、軽いのであると、點狀の白い物が附着して居る。ひどいになると、スツカリ眞白になつて、白くして幾分か黄味を帯びたものが咽頭について居る。同時に咽頭の粘膜は充血して紅くなつて居る。それがあつたら直ぐに猶豫なくデフテリーだと云ふことが極められる。醫學の方から言ふと、色々の病氣で白いものが起るものがありますけれども、

幼少の時分に斯う云ふものがあつたならば直ぐデフテリであることと云ふことを極めても宜い位である。此の白いのは何かと云ふことは黴菌が棲息して段々殖へて行つて、茲に白い義膜と稱へるものを作る。是が何故危険かと云ふのに此所で黴菌が何千何萬と云ふ數が溜つて各黴菌が出した毒を身體の中に送り込む故に其毒の爲に患兒の心臓が麻痺して死ぬことになるのです。従つてデフテリを我々が診ますと一刻も早く注射する。注射が早ければ早いだけ毒の廻方が少い理窟だからです。それですから家庭の方から言つても咽頭を早く見て同時に醫者に早く治療させるやうになつたら、其の子供の爲に幸福であるのは當然の語である。咽頭を見ることは大變六づかしい事かと云ふに別に譯は無い。口を大きく開ければ直ぐ此所に白いものがあつたならば、デフテリと云ふことが分ります。時に依ると舌に蔽はれて奥が見えないことがある。其の時には舌を押へるとか匙の柄の

方を能く火で焼くか、熱い湯に入れるか消毒をして置いて、それで押へると能く見える。極く譯の無いことで、若し子供が非常に八釜しい子供なれば鼻を摘んで呼吸をさせないやうにすれば開けますから、譯なく咽頭を見る事が出来る。今申したやうに注意が遅れると、助かるべき者も死ぬのでありますから、若し聲が嘎れてゴン／＼犬の吠へるやうに咳をしたり、鼻の所から始終汚い膿が出て何だか妙だと思はれたり、(そういふ時は鼻のデフテリが來て居る場合で餘程悪性である。)又は口が臭い場合には、若し出來得るならば、咽頭を一遍見てやつたら非常に良いだらうと思ふ。

格魯布

デフテリの種類で質の違ふのは格魯布、是は幼稚園に來る位ひの年齢の者には殆ど少い。是はデフテリのやうに呼吸機關まで犯されて、呼吸困難がひどくて、同時に例の犬のやうな咳をする。呼吸困難がひどい爲に唇が紫色を呈して、呼吸の

激しい爲に胃の所が引込む。誰が見ても格魯布で無いかと云ふことが分かる。それは四年以上の子供には極く少い。所が若しそれであるとそれはチフテリーよりも危険である。チフテリーよりも最つと重い方に屬します。咽喉を見ても何にも無くても、勿論危険だと心得て居らなければならぬ。

百日咳

其の次には百日咳。是は誠に困つた病氣で、我々が一番苦んで、又同時に今迄は如何に苦んでも何も發見することが出来ず、殆ど放擲されて仕舞つた位の研究するのに難しい病氣である。年齢は初生兒から七八年位の間にも多く来る。未だ微菌が發見されて居りませぬが何でうつるかと思ふと、やはり他の病氣と同じやうに空氣でも来る。咳其の他衣服、食物などからも来るらしい。是は幾日位の間から来るかと申しますと、他の子供からうつつてから、一定しては居りませぬが三日四日經つと起ると云ふ人もあり、又十日位の間から

起ると云ふ人もあります、是は初めの中からは、云ふ風にコン／＼と云つて後に引くやうになる。初めの中は、たゞの氣管支加答兒と區別することが出来ない。従つて百日咳に罹つて居つても幼稚園に入居して居る。その爲にそれからそれへと感染することが多い。我々だと初めから百日咳になりはすまいかと云ふことが言へますけれども、素人の方には困難である。症候は唯咳を順次に引續いて急き込むやうな咳をやるので、通常咳出してから十日、十二日位おしてから始めて急き込んだ後に内へ引くやうな咳をする。此時分には素人でも、子供を常に取扱つて居る方々は、之は百日咳だと云ふことが分つて來ます。是は誠に此の病氣の質の悪い所で、其の初め十日十二日位の間咳が後に引かない。唯だ急き込むだけであるから、初めの中は慥に百日咳であると言ひ切ることには困るやうなことがあります。其の十日十二日を過ぎると後に痙攣期と名付けて痙攣様の

發作性の咳嗽を起して来る。一日に二十遍も、三十遍も、甚しきは百遍も二百遍もコン／＼後に引く咳をする。それは極く軽いのも三四週間、長いものになると二三ヶ月位續いて漸く治つて来る。非常に長い爲に百日咳と云ふ名前を日本でも今迄用ゐられて居る。唯困りますのは、醫者の方で特によく利く薬がまだ發見せられて居ないのであるが、唯一遍經過すると麻疹のやうに二度とはかゝらぬ病氣である。一番危険なのは弱い子供であると百日咳の爲に肺炎を起して死ぬのがよくあります。従つて此病の爲には幼稚園に來る年齢の子供自身に多く死にませぬが、若しそれに兄弟がある時、若い方に即ち小さい二年の小兒にうつると、氣管支肺炎だけでも危険であるのに、百日咳が合併すると實に危険である。是が幼稚園時代の子供の病氣の中で一番恐しい傳染病である。ですから貴方々の方で御注意をなさるならば、一番初めの咳込んで來た時分に、若し變だと思つたら、

直ぐ相應の經驗ある醫者に診て貰ふが宜からうと思ふ。もう一つ危険なのは治つたと稱して幼稚園に來る時に、何しろ病氣が百日もかゝる故に、家でも堪へられなくなる。日に十遍も二十遍も咳く時分には寄越しもしない。又寄越して追歸へされる爲に來はしないが、これが百日も經つて熱は少も無く、日に依ると二三度咳くとか、極く寒い風に當ると三四度も咳くと云ふやうな時になると、スツカリ治りましたと云ふことにして、幼稚園に來るやうな場合も随分有り勝ちである。さう云ふ風なのはやはり未だ傳染する時代である。少くとも全然咳をしないやうにならなければ他の小兒に傳染せぬと云ふ譯にはいかぬ。發作性の咳が一遍でも出る時にはやはり他の子供に移る。危険のある時代である。是は餘程氣を付けなければいけないと思ふ。

腸、窒、扶、斯

是は子供も大人も同じで立派に黴菌も發見されて

居りますすけれども、是は幼稚園とはあまり關係が少いように思はれる。熱が出れば小兒が學校へ來る事もないし、ハッキリ治つてからで無ければ幼稚園へ出て來ませぬから幼稚園の方へは危險が少い。是が傳染するには大便から傳染する。又水道からも移る機會がある。又食物と衣服などから傳染して來る。一般に子供の腸窒扶斯は非常に質が良くて殆ど死なない。他の病氣が合併するのでなければ、皆な助かります。この點は大人の腸窒扶斯とは大分に趣を異にして居る。

赤痢

是も思ひの外幼稚園の方でうつると云ふやうなことは少いだらうと思はれる。唯便所の消毒は八釜しくして置くが宜しい。一緒に食物を食べるやうなことがありますまいから、少くとも東京で斯う云ふ所に移ることは餘り無からうと思はれる。從つて症候なども御話する必要もありません。

流行性感胃

インフルエンザ之も微菌で起りますすけれども是は全く防ぎようがない。或る者は熱が無くて唯咳だけでインフルエンザに罹つて居る者もある。又熱が無くて下痢を起して居るやうなものもある。從つて確かにインフルエンザと言ひ切ることが出来ない病氣でありますから、立派な流行病ですけれども防ぐことが出來ない。又た之を防ぐ爲に隔離すると云ふやうになつたら、皆隔離しなければ一度やると二度やるのが少いけれども、此のインフルエンザだけは何遍でもやる。微菌で起る病氣であるにも拘らず免疫にもならない。何時でも罹る。所が宜いことには四歳以上の子供のインフルエンザは殆ど危険は無い。其の以下の幼兒ですと、よく斃れるのがあるから危険ですが、大きい子供になると直きに治ります。以上申しましたものは急性の傳染病で、慢性には肺結核などがありますが之は大なる題目ですから

何時か機會があつたら又御話しようと思ひます。

(フレーベル會十二月常集會)  
 演 速 記

## 幼稚園に於ける圖書

藤 五代 策

今假りに幼兒に向つて、紙と鉛筆とを與へたとす。夫れこそ何よりの大喜びで、そこら當りにある物體の形か、さもなれば自分の意に浮ぶ處の思想を無難作に得意然として、描き出すのである。けれど、其の描ける形は甚だ不釣合のもので、方法もなければ順序もない。勿論幼稚園の圖書は、小學校に課する圖書教授の方法とは全く異つたものであるから、隨意氣まゝの描かせ方で差支へない様なものの、何か茲に平易な適當なる方法でもあるならば之に過ぎたことはないかと考へる。余は幼稚園の教育には少しも關係を有して居らぬけれども、聊か小學校の圖書教育に興味を有して

居るものであるから、幼稚園の幼兒に課しても宜敷からふと思ふ方法の二三を掲げて、參考に供したいと思ふ。

一、基本形を與へて畫を作らしむること。

幼兒の身邊にある器物は、千種萬別實に數へ盡さぬ程あるけれども、其の形を正面より、或は側面より又は平面より眺むるときは、其の輪廓の大體の形狀は、方形とか、圓形とか、卵形とか云ふ様に、或一種の形に歸せしむることが出来るのである。その歸納した形が所謂基本形であつて、幼兒の圖書には先づ此の基本形を與へて畫を作らしむることが、最よき方法と考へる。さて其の基本形は、木製のものと針金製のもの紙製のもの等様々あるけれども、最簡單なものは、十オンス位の馬糞紙を、直徑一寸五分位の三角形、四角形、長方形、梯形、圓形、半圓形、卵形の七種類位に切貫いたものが最適當と思ふ。而して夫等の基本形は幼兒數丈別々に小箱に納めて置いて、時間前に



一枚づゝ配附するのである。茲には半圓形を與へて、描かす場合の例を掲げてをく。

(イ)準備

保姆 直經四寸の半圓形及色チヨーク

幼兒 半圓形、種々の色鉛筆 十六枚切書學紙

(ロ)描かせ方

今日は皆さんに丸を二ツに切つた、半圓の形を一枚つゝ、お渡ししてあります。此の半圓の形を圖學紙の上において、其の周りを鉛筆でなぞつて、平において、縦において、又は倒において、澤山の形を描いて、その形に種々の部分をくつ附けて、皆さんの好きな形を描くのであります。

さあ是から、どんなものを描いたらよいか考へて見ませう。皆さんそつと目を閉ちて考へて御覽なさい。朝早く起きてお臺所に行つて、女中の扱つて居る品々を考へて御覽なさい。半圓に見えるものはありませんか(此時多くの幼兒

は鍋があります、箆があります、茶碗があります、鉢があります、など口々に言ひ出す)

さあ考へ出したら、鍋でも、茶碗でも、その物に見える様に、脚や糸底をくつ付けて御覽なさい。

今度は學校へ參る途中で、店屋に排べてあるいろ／＼の品を考へて見ませう。先づ水菓子屋の前に出でました。澤山の果物を二つに切つて御覽なさい。若しも半圓に見える物があつたら、

夫れを描いて奇麗に色をお塗りなさい。次には帽子屋に行きます。櫛屋に行きます。傘屋に行きます。仰いで空を眺めます。輕氣球の様なもの

があるかも知れません。夜になると又々面白いものが顯はれます。皆さんは澤山のもの考へ出したでせう。今日は成るべく澤山描いて、奇麗に色を塗りませう(斯く導いて行きますと、

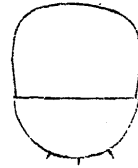
如何に鈍い幼兒でも三つか四つ、位は、何か物の形を描き出すのであります。幼兒の描いたも

のを集めて見ますと次の様なものであります

茶碗



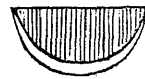
鍋



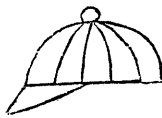
西瓜



櫛



運動帽



帽子



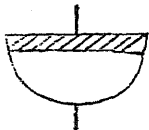
鼠



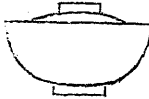
蝶



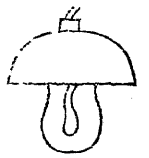
獨樂



椀



電氣燈



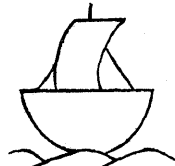
呼鈴



裁包刀



船



月



先づ以上の様な形を描き出すのであります。幼児と云ふものは、比較的考案の達者なもので、大人では一寸氣の付かぬ様のもので、幼児は無難作に種々の面白い形を描き出すのであります。此の方法は、半圓形が根底となつてゐるから、保姆の方で半圓に見ゆる者を澤山描かるゝ様に導びて行きさへすれば、極はめて樂に、しかも、興味溢るゝ内に多くの畫を描かすめ得るのであります。最後に幼児の描いたものを壁面等に掲げて、一同をして面白い形を見さすときは、幼児は亦一層の喜びであります。以上の方法により



梯形にて描かすときは、

次の様な形が出来ます。

踏臺、腰掛、ボンボリ、炭斗、植木鉢、コップ、瓦斯燈、バケツ、桶等

卵形にて描かすときは次の様な形が出来ます。

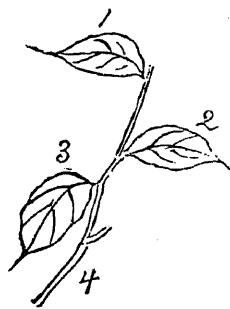
卵形辨當、團扇、水差、茄子、瓢箪、芋、達磨猫、等

二、木葉、折紙等を與へて輪廓を寫さしむること

此の方法は、從來何れの學校でも、行つてゐる方法である。木葉は普通の單葉にして、成るべく曲り居らざる平面のものを撰ぶがよい。併し、曲れるものも新聞紙の間に挿み一夜重しをおくと、正しく平になし得るものである。

さてその輪廓をとらすには、檜の葉、紅葉の葉、杏銀の葉の如きを、圖畫用紙の上におき、左の手にて動かぬ様に押へ、右手に鉛筆を持ち、正しく輪廓を寫して好みの色を塗らすのである或は以上

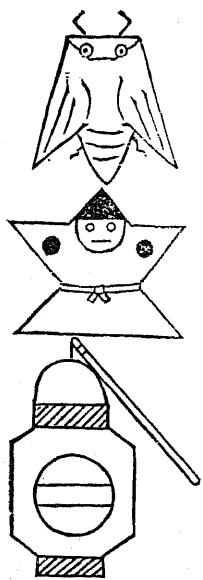
の葉形を三四枚も散らして寫させ、葉と葉との間に枝を附けると、亦



一層面白いものが出来る。例へば始め(1)(2)(3)の如く葉を寫しおき、後に(4)の枝

を附けるのである。

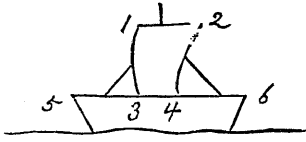
夫れから、折紙細工の輪廓を寫さるゝものは、兜蟬、灯提、福助の様な平面形のもので、之れも描いた上に、その物の意味を描き添へるのである。例へば蟬には眼や脚を附し、福助に眼鼻口を描がき、灯提には紋形又は提柄を附くるが如きである



三、標準點又は標準線を與へて描かしむること

と。

これは器物、景色、動物、の如きもの、必要な點又は線を描き與へて、餘地の部分は、手本又は考案によりて描き足す方法である。此の點及び線は極めて淡い水色で印刷したものならば一層結構であるけれども、若し印刷が面倒であるならば畫用紙を二三十枚づゝ重ねおきて、其上より針にて點を作るのもよい。而して線は點を續くるれば出來ます。例へば次の如き海面に船の浮べる處を



描かさんには、其の必要な點(1) (2) (3) (4) (5) (6)の部の點を作りおき、幼兒は手本を見て、點と點とを連接して題畫の如く描き、之れに彩色を施す方法である。

以上述べたる方法は、最も幼兒に行ひ易き二三を述べたるのである

が、要するに幼稚園の兒童は、小學校の兒童とは大に其心身發達の程度を異にしをるから、純然た

る寫生畫とか考案畫とかは、勿論描ける筈はないので、保姆の方より十分補助を與へ幼兒は其の補助によりて僅かに自分の思ふものが描ければ、夫れで澤山であると思ふのである。

## 桃の花

保井コノ

桃源に春を探りて歸るを忘れ、仙女に贈られて美果に三千年の齡を延べしと云ふ花實何れにも春の日の趣に富む桃は雛祭りの花として幼き子の行末を祝ふ、目出度き花と云ふべし。然し私は此花を祝ひの意味などからでなく、たい花といふ見地からしらべて見たいと思ふ。

桃の花の咲いて居る枝をとつて見ますと、昨年ついで居た葉の跡が、所々にあつて、其上に、美しい花が一つ或は二つ着いて居たり、又花に並んで或は別に幼い芽の著いて居るのを見る事が出來ま

す。此等の周り又は花の下部に小さな貝殻の様な形をして澤山の毛で覆はれたものがあります。是を鱗片と申して、學術上では低出葉の一種であると申されて居ます。一體、桃の花は秋に葉が落ちると間もなく、もう來年に開くべき花の形は出來るのでありますから、是が嚴冬を越すには、是非とも充分な保護の裝置が必要なのであります。此鱗片のあるのも、是が爲であつて、花は成る丈に縮まつて居て、其上に厚く堅い上に色まで持つて居る鱗片に保護されるのであります。次に花を探つて檢べて見ませう。花の一番外側にあつて壺の様で其先端が五つに分れて居りますのを萼といひます。そして此壺の所を普通萼筒と言つて居りますが、學者によりますと此部分を筒といはずして、花托と申し、離れて居る部分丈を萼と申して居ります。此考へは今日正當な考へであつて植物學上から申すと、私も同意をするのであります。今日まだ前の説が大分行はれて居ります

から、教科書などでは、前説を採用したものが多いのであります。併し早晚後説に一致しなければならぬ時が參るでせう。八重の花は暫く御預りとして、單瓣のものについて見ますと、萼と互ひ違ひに五枚の花弁があります。普通紅色で形は圓に近いものであります。併し色は、種類により淡紅より白色まで色々の違ひがあります。此五枚の花弁を併せて花冠と申します。花冠の内側には、白色の柄を持つて其上に黄色の囊をつけて居るものが澤山にあります。是は萼筒に附いて居るのですが、雄蕊といつて、其柄を花糸、囊を葯といひます。葯は二室に分れて居りまして熟すると、縦にさけて中から黄色の粉を出します。此粉を花粉といつて花の中で大切な役目をつとめるのであります。桃の花と梅の花とはよく似て居りますが、桃の花の雄蕊は、梅のその様な花の外に突き出でないのであります。

雄蕊の中央に一本の徳利の形をしたものがありま  
す。是を雌蕊といつて、其下に脹らんで居る所を  
子房、上端の少し扁くなつた所を柱頭、そして此  
兩方の中間の細い頸の所を花柱といひます。子房  
の中のは胚珠といふものが一つありまして此胚珠  
の中に卵が出來ます。

此様に、花の部分は色々の變つた形のものから出  
來て居りますけれども、是等は皆普通の葉となる  
べきものが、變化して出來たのであります。即ち  
は五枚の葉から、花冠も五枚の葉から、雄蕊は又  
其數だけの葉から、雌蕊は一枚の葉から出來たも  
のであります。此理由は少し複雑になりますから  
省きますが、つまり、延びては一本の枝となるべ  
き芽が、そつくり花に變るのでありますから、植  
物學者は此花の事を花芽と申し、花の各の部分  
をして居る葉を花葉と申まして普通の芽との關係  
及び差異を表はして居ります。

花に附いて居る柄の事を花梗と申まして花梗は枝

に續きます。

一本の草の生涯を見ますと、春芽を出して冬に枯  
れるものもあります。秋に萌え出で、翌年に枯れ  
るものもあり。又春芽を出して冬になると地上の部  
分丈枯れて翌年また地中から新しい芽を出して幾  
年か續くものもあります。桃の様な木の部類に入  
るものは、地上部も久しく枯れずに、年々生長し  
て參りますが、さて永久に其生命を持ちつづける  
ものでなく、或る年數を経ると枯れてしまひます。  
そこで、花は一方では此木の枯れる爲に其種屬の  
絶えてしまふ事を防ぐ爲に、つまり種屬保存の爲  
に、他方では尙進んで、其種屬の増加發展を計る  
爲に出來たものであります。即前申した雄蕊の葯  
の中に出る花粉が、雌蕊の柱頭に達しますと、  
其中から花粉管といふ管を出します。此管は柱頭  
から這入つて花柱の組織を通じて遂に胚珠の口に  
達しますと、管は破れて、花粉の中に在つた内容  
は茲に注がれます。此中には普通二個の雄核と申

ものが、含まれて居まして、其一つは前に申た胚珠内の卵に合します。是が後に成長して、胚と申す一個の潜伏期にある小さな桃の木となります。此胚を生ずる頃には、胚珠は餘程大きくなりますし且其名を代へまして種子と申す様になる子房も同時に成長して、堅い内果皮や果肉に變じ其名も果實と變へらるゝに至りますのです。

かく花を生ずる目的が種屬の保存及發展にありとしますと、其出來上る果實は、能ふ丈け立派なもので即強壯なものでなければならぬのは、自然の道理といつてよろしう御座いませう、一般に申すと一つの花が自分の花粉を自己の柱頭に注ぐ即授粉しますと、或者には胚が出來なかつたり、出來ても發芽しなかつたりする事があり且若し充分に發芽するとしましても其出來た植物が、他の花から花粉を受けて生じた種子の發芽して出來た植物に比べて、非常に弱かつたりする事は、彼の進化論の開祖たるチャールズ、ダーウイン先生の夙に觀

察實驗を種々の植物につきてせられた所であります。そこで、自然には又、此不得策を敢てしない工夫が出來てあります。それは自己の花粉を以て授粉する（自花授精）事を避ける装置であります。が、つまり一つの花の雌雄蕊は其成熟の時を異にして居るのであります。即雌蕊の柱頭は内部の準備が整つた時は、粘質を出しまとて花粉を受け易くし、受けた花粉から花粉管を出すに都合よくするに至るのであります。一花の花粉の盛んに出る頃には、其雌蕊は、此様の状態でないのであります。

そこで手近な自分の花粉を自分の柱頭に送られたいとすれば勢ひ他の花から其供給を仰がなければなりませんから、是には適當な仲介者を待たなければなりません。此場合にも自然はまた立派な媒をもつて居ります。それは即昆蟲であります。かく授粉の媒を昆蟲がします花を蟲媒花と申します。桃の花の花粉を媒介する昆蟲は重に、蠅、蛇、蜂

の如きものであります。是等の昆虫として只花の爲に働くのではありませぬ。花は常に是に對して立派な報酬を與へて居るのであります。それは蟲の爲に食物となるべき蜜を花の底から出し、時には其必要な花粉の一部分をも蟲の食物として供給して惜まないものでありますから是等の昆虫は花を見つけると一つから一つへと飛んで參つて食物をあたります、此時に蟲の體についた花粉は他の花に行つて授粉せられるのであります。かく開花中昆虫を誘ふ必要がある爲に、遠くに居る蟲に對して標的を與へるのは花冠の役目であります。花冠は苔の時には内部の雄蕊や雌蕊を保護するに止まりますけれども、一旦開花しました時には其鮮やかな色は常に目標となつて昆虫を誘ふのであります。かく梅過ぎ櫻散りたる後に、濃艶の色を以て春の末を飾ると見る桃の花も、花自身にとつては特別の任務を持ち、それらの目的に従つて出來て居

るもので、凡のものの皆決して人間の爲にのみ生育して居るものではありません。そこで我々は此花を見て樂しみ、果實を採りて食ふと共に考へなければならぬのは、自然物の保護を勉めなければならぬと言ふ事です。人も自然を利用すると同時に其自然自己の目的をも認めて是を助長して行きたいものです。併し我々人類の生存の爲に是に不利益を與へるものを除くのはまた別の理由の下にする事です。

「八重の花。」前に申した通り花瓣も雌蕊も共に葉の變形でありますから、時に此雌蕊が花瓣の様に變つて澤山の瓣を有つ花となる事があります。是が八重の花の出來る譯であります、かく變形した雌蕊には最早花粉が出來ませんから一方の重要な役目は駄目になります。殊に又此様な花では其雌蕊も大方不完全であつて結實せぬ事が多くありますので花にとつては一向つまらないものなのです。人が對しては單瓣よりも美感を與へる事が多



いので此方面から保護され、其増加も砒接等によりまして計られますから結局は利害の差はないかも知れませぬ。

「源平桃」桃には、五月桃、半夏桃、白桃等と我が國在來のものに加へて此頃は、「アムスデンジュン」、「アレキサンダー」、「天津水蜜桃」、「上海水蜜桃」、「金桃等」と外國種や新種を加へて色々澤山にありますけれども重に花よりは果實を目的に栽培せられて居るのであります。是等は色々其花の色を異にして居りますが、此外に源平桃として、一本に紅白の咲き分けのものがあります。或花は純白、或花は純紅、そして時には一花に紅白の雜り色を見せます。是は多分紅色種に白色種を合して生じた雜種であらうと思ひますが、研究をして見ますと遺傳の方則上の面白い實驗材料となり得るものと思はれますが之は他日折を見て此事に關して書いて見たいと存じます。

「實咲きの花。」もと太陰曆によつた頃の雛節句た

三月三日は桃花の花を自然に見られる頃であります。今今の東京の雛祭りには自然の花はまだ蒼が堅くて咲く所でありませぬ。それで此時に用ふる花は、是等の枝を切り取りまして温室内で開かせますのです。つまり四月に開く花は昨年の秋の末に早く出来て越冬して翌春暖氣の至るのを待つて居るのでありますから此枝に濕氣と溫度とを與へますと、潜伏して居る苔は既に春暖の頃になつたと偽られて、盛に活動を始め遂に開花するに至るのです。是は此に一旦寒くなつた後又小春頃の暖かさに返り咲のするのと同じ理由なのであります。

## 梅

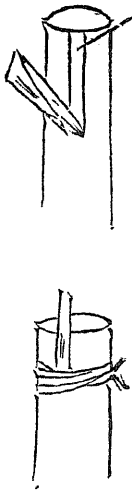
小寺 彌彦

梅を盆栽にして樂まうと云ふには、やはり實生のものがよい。獨り梅にかぎらず、實生のものを、充分手入れしたのでなければ逸品は得られない。然

るし梅の種子を蒔てから、花の咲く迄には、少くも、十四五年はかゝると、思はなければならぬ。その上實生の梅をそだてると云ふ事は、一寸、素人には困難であるから、寧ろ壓條又は接木をするのがよい。

接木にはいろいろの方法がある、それ／＼木によつても異なるから、相當な經驗と熟練とが入る。接木の事をくわしく云ふは一朝一夕の事でないからたい左に簡單な一法を述べて見やう。失敗すると思つて試みて成功すれば好い感みである。

先づ發達の盛んな實生苗、杏、李、桃等を砧木にとる同種の梅はあまりよろしくない。砧木をとり



切口

接きたる所

たくばそれを二寸内外の所を鋭利な小刀で切る。口はよくけづりて滑かにしてをかねばならぬ。又

小刀にて適宜に上皮を切りはなし即ち別圖の如くなしこれに接がんと欲する穂をさし込み接蠟をぬり蠟糸にて固く纏結して置けばよい。接蠟を作るには大約

- 松脂 二〇
- 蜜臘 一〇
- 獸脂 五

獸脂 五

の割合に混するのである。即ち先づ松脂を鍋にてとかし、蜜臘を加へ、最後に、獸脂をいれ、暫時煮て、鍋を冷水中に入れて、冷しつゝよくかきませる時は、乳白色のものが出来る。又蠟糸とは太い木綿糸を、蜜臘を溶したる中に數分間浸して後取出して用ゐるのである。接木をする好時期は春の彼岸前頃がよろしい。一番梅は接木をする時節が、早くてよいのである。盆栽にする梅の大きさは、勿論一定しないが、日本の室などで、一寸、机邊にでも、置くのは、五寸乃至八寸位が適當である。梅の模様ある鉢に、梅を植ゆる時は、その模様を

表に出さぬやうにすると云ふ事があるが、古人の言を一概に排斥するはよくないがさりとて墨守するにもあたるまい。次ぎに梅を培養するに當り注意すべき事を擧げて見やう。

一月 一月咲かせんと欲するものは十二月より温室に入つてゐるから此の月も温室よりとり出し直ちに嚴寒にあて、はいけなない。晝は溫暖な所に置き夜は又温室にもどす注意が大切である。温室内にては灌水を怠らぬやうにせねばならぬ。

二月 温室に在り此の月下旬には大抵の野生のものも開く、温室にて早咲せしものは、開花後日光の直射する所へ假に移植するがよい。灌水は天氣晴朗の日に午前十一時頃より午後二時までの間に一回寒き折は温室外のものは朝に灌水するもよし夕方施せば翌朝までに氷る事がある、二月下旬から梅の挿枝をとり、切口を水中又は泥中に二三日浸し床にさし挿木を行ふ事が出来る。

三月 此の月上旬も挿木によろしい。下旬にや

芽をふき出すから枝及び根の刈込をなし假植より本植にする。温室で開花をしたものは、枝を半ば刈り込みて、土地に移植しなければいけない。梅を翌年開花せしめんには、花が散り漸く芽の生じた時掘りとり、太き根を切り去り、枝を芽の生すべき部分を、二ツ三ツ残し切り去り根の切口を鉢底にしかと押つけ、よく篩ひたる土を、根にす

きまなく振り込み、小根のいたまぬやう、棒にて固め、半ヶ月乃至一ヶ月間日蔭に置きて、そろ／＼芽の延る頃、割肥又は油粕又は牛乳を與へるとよい。鉢は根のやうやく入る位の小なるもの、方がよろしい。下枝を太くなさんには、春時その枝を充分生育させ七八月に適當な所より切ると大に生長するものである。

五六月 五月下旬一回、六月下旬一回、芽を摘むのがよい。春より七月以内に生ずる芽は、決して發生をしてはいけない。土用芽も秋に生ずる芽も、摘去らねばならない。梅雨中は、濕りがちのもの

なれば、よく／＼乾燥したる時に灌水せねばならぬ。肥料は梅雨中に施してはいけない。梅雨の交枝葉に虫が生ずる事がある。此の場合には百倍の硼酸水を用ひて驅除するがよい。

七八月 剪枝、總じて灌水は朝夕二度行ふがよい。

水をたやすは、大の禁物にて、十年の苦心も、一日灌水を怠れば何の功もない。一體、梅は細砂質

の粘土を好むものであるから、鉢に植ゆる時、鉢底四五分位、粗砂をいれ、その上に少量の土をお

き、植ゑるのである。又は鉢の三分の一位まで消炭を入れる、即濕潤な地より水はけのよい所を梅

は好むものである。水はけのよい鉢は一層灌水に注意しないと失敗する。一寸、話が岐路に入るが、

苔をつけるのは、苔を日光によくさらし、細砂の如くなし、篩にかけたるを、梅雨中、鉢の土上に

散布し、軽くその上に土を被ひ水をかけて置くこと

三週間で見事に出る。苔がある時は、多少日光が鉢の土に直射しないから、灌水の都合がよろし

い。

十一月 初旬は、春期になせし如く、根を切り、栽込み充分日陰に置く。

十二月 此の月は來年一月、開花せしめんと欲する梅を、温室に入れる。温室に入れるのは、樹勢を損するものであるから、若木を用ひなければならぬ。古木を温室に入れるのは、往々、枯死を早める原因となる事がある。偕て、温室に入るには、先づ豫め、戸外の日光の直射する、風通しよき所にて、充分外氣にさらし、後、温室に入れるのである。温室に入てからも五六日間は火氣を用ひず、その後はじめて火を用ひるのである。

火氣の度及び温室の構造注意等は凡て省く。

大體まあ以上の如くである。次ぎに梅の枝振りを直さんには、銅線を用ゆるがよい。銅線に紙に墨を塗りて（又は澱にてもよろし）まきつけたものを用ゐる。枝振りを直すは、春がよろしい。秋は、痕が残りにてうまくゆかない、まづ、枝振りを直さん

とする時は、豫め、灌水を節して、置かなければならない。一般に枝をねじる場合の如きは、決して、中途で、力をゆるめてはいけない。ゆるめると龜裂を生じ枯死するものである。

梅を植ゑかへるのは、葉の伸び始めてよりは、決して行つてはいけない。必ず、落葉より落花迄の間にしなければならぬ。即ち、十一月より三月迄の間が最もよらしい。植かへる時は根を充分にきり、例へば、一本特別に成長する枝があらば、必ず、之れに相當する根があるものであるから、枝振を正し第一條件として根を正さねばならぬ。若木は年々移植し、且根を切るがよいが、古木は隔年位にし、春はつとめて、日當りよき所に置かなくてはならぬ。移植する場合には、根全體を、よく、清水にて、洗ひかきかして、後植ゑるがよい。移植後直ちに雨にあてるは大禁物である。肥料、自然の沃野に生長するものと異なり、方寸の盆裡にあるものなれば、肥料を充分にしなければ、決して好結果は得ない。

然し過ぎたるは尚及ばざるが如しで、葉が黒味を帯びて來らば、肥料過多の證據であるから、節減せねばならない。肥料でも灌水でも、決して樹頭より灌いではならぬ。根の周圍に施す心掛が大切である。肥料には下肥、堆肥、干鰯、油粕等で一番下肥は有功であるが一般に用ゆる譯にはゆかない、殊に盆栽物などには用ゆる事は出来ないから油粕を代用してもよい。肥料を施す時節は、開花前即ち十一月より二月の間、開花後に一回、それは結實の爲めであるから、結實に、重きを置かない場合ならば、施肥しないでもよらしい。夏の土用過ぎ、濃厚な油粕液をやる。初夏に肥料を施すと虫害にかゝる事があるから、注意しないと害虫の爲めに枝葉を害せられる。又一法には、暑中に一度、晩秋に一度、寒中に一度、充分に乾鰯、鰯粕、油粕等を旋肥する法もある。

述べたい事はまだ澤山あるが私の切に希望する所は、樹木又は盆鉢に數千金を投じて、骨董的に愛玩するのではなく、縁日の植木屋からでも何でもよいから、一鉢をあがなはれ家庭的娛樂の一つとして樹木の盆養を御勧め致したのである。

## 家庭叢話

光藤 ふで

## ○母の不在

實に一家の中で母親の居ない程物淋しい事は御座いません。私共よく子供の頃學校から歸りましてお母さんが見えないと何となく失望した事を覚えて居ります。昔も今も人の心に變はあるまいと思ひます。私も實は子を持ちながら學校に出て居りました一人御座いますが、長男が五歳の折、幼稚園に通はせておきました。寓居は其の幼稚園のお茶の水から近い湯島で御座いました。或る日の事、初夏の事として私は學校から歸り、沿衣に換へまして、しばらく落付いて休んで居りました。モ一幼稚園から子供が歸る頃と待心に思ふて居りましたが中々いつもの通りは歸宅いたしません。しかし父親がすぐ隣の學校につとめて居りますから、其處へいつて待つて居て一緒に歸る事と存じ

て居りました。

三時頃父親は歸宅いたしました。いつもの腰巾着の長男が見えません。先づ胸をおどらして、子供は如何いたしましたと言ひも終らぬ中、マダ禮らないの、モ一午前退けたのにとあきれ顔、ア一それでは何處かに迷子にでもなつて居るかしらん、と思へば胸もつぶるゝばかり、急ぎ手を分けて捜しに出かけました。

私はすぐ幼稚園に參りましたが、モ一誰れも居りません。小使が掃除をして居りますばかり。いきなり小使に聞きますと、モ一皆さんは午前御歸りとの事、それから、幼稚園を出まして、宅までの家について、軒別に聞きましたが一向分りません。只一軒の家のお神さんらしいのが、ア、あの坊ちゃんですか、毎日〳〵お父様とよくお通ひになります。今朝も見掛けましたが、御歸途は見ませんでした。マ一其れは御心配ですこと、いたく同情してくれました。が何等の手掛りもありま

せん。或家のお祈さんはア、其様で御座いますか  
 マー此頃は油断はなりません。先日何處々々で  
 子供が浚はれて一向分らない相で御座いますよと  
 若しやと思ふ矢先に、こんな事を聞かされました、  
 モー眠は涙に曇り胸は一杯になりました。多分迷  
 子になるか、人に浚はれたに違ないが、幼稚園か  
 ら宅までの道はよく子供の知りぬいて居る所で決  
 して迷ふ氣支はない、そーいたしますと悪漢に浚  
 はれて居るとより外考へが浮びません。どうもこ  
 んな時にはよい方へ考へるよりか、悪い方へ考へ  
 まして、大層心配をいたしました。ア、モーあの  
 洋服姿を見る事が出来ないのかしらん、二度と彼  
 の愛児に接する事は六ヶしい事か、今頃は何處で、  
 どんな悪漢に苦められて居る事かと、身も世もあ  
 らぬ悲痛、幾ら捜しても駄目と諦めまして、歸途  
 につきました、途中同じ様に捜して下さる人に  
 逢ひました。互に手掛りなきま、困つて居りま  
 すと、父親も亦何等手掛りないと青息吐息。サア

早く警察の力を借り様と急ぎ其方面へ運動を始め  
 ました。私は一人悄然深い、失望と煩悶に身を  
 售しながら宅の門まで参りますと、家主の奥さん  
 や、子息さんが、駈けて来て、「奥さんよい所で御  
 目にかゝりました、今神田の警察署から電話がか  
 かりまして、坊チャンを止めてあるから早く迎に  
 来い。泣いて仕方がないとの事ですと息つきあへず  
 語られました。聞く私の心中は「何んなに喜悅  
 と光明とに充されたでしょう、」「マーありがたう」  
 と申して居ります所へ父親も歸りまして委細を話  
 しますとすぐ飛んで迎に行きました。  
 しばらく待つて居りますと、子供は父さんに手  
 引かれながら、種々の玩具やパンなど持つて歸つ  
 て参りました。マー警察署では大泣きして居まし  
 たかと聞きますと、「イエモー迎に行つた時には泣  
 き止んで、署長さんが色々親切に慰めて、國旗を  
 作つてやつたり、パンを興へたりして、遊ばせて  
 呉れてと聞くより先立つものは喜し涙で御座いま

した。何が故に此の幼児が神田三界へ迷ひ込みしかと不審を打たる、方も御座いませう。よく分り切つた道を間違ふ筈もなし、子供心に無暗に遠征を試みる程暴擧を企てる程の勇氣のある子でもありません。アー愛兒は母を尋ねて、母を慕ふて、神田あたりへ迷ひ込んだので御座いました。丁度私は今川橋の少し先の日本橋の學校につとめて居りました。時々愛兒を連れて、學校に遊ばせた事が御座いました。其の學校の門前を電車が通つて居ります。常に兒は二階の窓から電車を眺めて。大騒いで喜んで居りましたが、今このお茶の水の幼稚園の門前も電車が通つて居りますから、子供心に不圖宅に歸つても下女や書生ではおもしろくないとも、思ひますまいが、母なき我家を無趣味に、つまらなく感じたものと見えますして、母さんの學校の前を電車が通つて居た、今こゝにも電車がある、この電車道を傳へば岐度母様の學校に行かれるであらう、一つ行つて見ようと思つたに違

ありません。幼稚園を出てすぐ電車路を傳ひましたら、あの電車はチヨード神田の方へ行くので御座いますから、ト〜神田へ行きましたが、サ一路は不明となる。學校はなし、お腹はすく、心細くなる、大きな聲で泣き叫んで居りましたのを巡查に見出されたに違ないのであります。よく其の不心得を諭しまして、それから矢張通ふて居りましたが、一年も経たぬ中の或日の事、私が學校から歸りますと、愛兒の姿が見えませぬ。すぐ下女に聞きますと、まだお歸りなさらぬとて旦那様が御迎にいらつしやいましたとの事に、又いつかの事をくり返したのかと、私も亦ちつとして居られませぬので、出掛け様といたしますと、父親に手を引かれて歸つて來ました。様子を聞きますと「母さんの學校へ行きたいと思ふて、いつやらは電車通りを行つたが駄目でしたから、今度はいつもや母様に連れられた道を覺えて、今川橋の方に رفتつた所が、途中何處かの奥様が下女を連れての



買物に、不圖少さい子が一人何處に行くのですと  
 不審に思はれたか、尋ねられた相です。所が子供  
 は母さんの學校に行くとはばかり、何處に學校があ  
 るやら、何處まで行く事やら、分らない様でした  
 から、奥様が、ソレデは駐在所へでも頼んだがよ  
 からうと、お連れになりましたが、イヤダとて聞  
 き入れません。色々親切に御尋ね下さいましたの  
 で、宅の番地が御分りになりました、下女をして  
 送り届けて下さる途中、父親に逢つたので御座い  
 ました。『マ―何といたしても、子供を持つて母親  
 が家庭を明けるといふ事は、家は兎も角、子供に  
 取つてどれ程の不幸か分りません、どうしても母  
 親は子供の歸る頃には、チャンといつもの様に家  
 に居て、笑顔で子供を迎へてやるべきものだと思  
 み、感じました。

持たすれば難をなだむる子供かな (一茶)  
 たちちねのつまゝすありや難の鼻 (蕪村)  
 轉びても笑ふてばかり難かな (千代)

御 馬

へ 2/4  
 調

5 3 5 3 | 2 2 | 5 3 2 2 | 2 0 | 1 1 2 2 | 3 3 2 1 | 2 2 1 6 ||  
 ヒンヒン ドードー ヒンドー ドー コーエタ フトツタ オホキナ

1.  
 2.

5 5 5 0 | 6 6 1 1 | 2 2 2 1 | 3 2 2 1 | 2 0 | 1 1 1 1 | 2 2 2 0 ||  
 ガムマ ヒキクル ベツトウ ハイ ハイ ハイ モシモシ ソレハ

3 3 2 1 | 2 2 2 0 | 3 3 5 5 | 6 5 3 2 | 1 5 1 2 | 3 2 1 0 ||  
 ドナタノ ガムマ リクケン ダイショウ ガムマテ コザル。

# 新入園兒の取扱方(一)

一、やさしく、

東京女子高等師範學校 附屬幼稚園 雨 森 劍

入園の最初は、満三歳から四歳に至る西東の辨へもない幼いもの、今迄は晝も夜も父母兄弟婢僕等の保護を受けて、入るにも、出づるにも、寝ぬるにも、食するにも、すべて、一人でするといふこととはない、極めて刺撃の少ない境遇にあつたものが、暫くの間とはいへ共暖かな家庭を離れて、入園するのでありますから、幼兒の見るもの聞くもの、すべて、新しくないといふものはなく、殊に、何十人と云ふ多い人々の仲間入をすることです。ですから、幼兒にとつては非常な境遇の變化であります。でありますから、成るべく刺撃を少なくし漸次幼稚園に馴れるにつれて、幼稚園は面白い楽しい場所であると思ふ様にさせることが第一の仕

ことと思ひます。

幼兒は變化を好むもので、新しく幼稚園に来ると云ふことは自身にも珍らしいし、且は又、自分が幼稚園に来る様になつた父母の喜びを見て、子供ながら何となく嬉しく感じ、第一日には喜び勇んで登園するのが普通であります。其時を利用して幼兒の好むもの、即ち、摺紙、或は麥藁等で簡単な玩具を作つて置土産として幼兒に與へ、それより自由に室内或は庭園にて遊ばせ、又は他兒の遊嬉をも參觀させて僅か一時間位で退園させます二日目にも同じく簡單なるものを與へて退園させます。三日目になると少し保姆に馴れて來ますから共に庭園に出て或は玩具の觀察などして退園させますかくして、一週間は全く自由にして、遅刻早歸り等も幼兒の欲するままになし、兎に角、毎日登園さへすればよいと云ふことにします。第二週目に至つて、少しく時間を延ばし、在園時間は一時間半位にのばし、第三週に至つて、始めて、辨當を

持つて來させることにします。食事が終れば、暫らく、遊ばせて、任意に歸ることを許します。お辨當は幼児が一番喜ぶもので、是れが爲めに登園を喜ぶものが多くなつて來ます。かくして一學期間は格別これと定まつたることをさせませんし、何等の要求をもしません。機會を見て、室内室外の所を擇ばず、唱歌したり、遊嬉をしたり、又玩具を興へて遊ばせ、好まないものには強て何事もさせず。極めて自由にさせておきます。又上の組に兄弟のあるものは、他の組で許す限り、共に遊ばせ、多勢の仲間に入るのを好まないものには室内で遊ばせ、室内に入ることの出来ないものは玩具室或は庭園で遊ばせ、兎に角く次第に幼稚園に馴れさせることを專一として、何事も強てさせる様のことはいたしません。

自由遊の際には、成るべく自然物に接することをつとめて、草、木枝、木葉、花、石、砂、蔓、實等自分の欲するものを弄ばせます。又子供をな

る可く健全にさせようと思つて出來得る限り運動を奨励し、鬼遊、かけっこ等をしたり或は、時々校内を一週し或は園外に連れて出ることもあり室内にありては席を定めず、幼児の好む所に座せしめて万事究屈にせず、害なき限りは、極めて自由にさせ、幼児が家庭にあつた時の事を考へ合せ、成る可くそれに近い方法をとつて、名を呼ぶにも家庭に於けると同じ様にして居ます。斯様にして居る中に段々と慣れて來て一學期保育の終り頃になると全く幼稚園の兒となつてしまいます。

## 二、色分けの徽章

岡山市 岡山幼稚園 折井彌留枝

當園の新入幼兒は大抵一時に八九十人も許可致します。昨年などは、百人以上で、有りましたが、爲に四月の新入當時は誠に混雑を極めます。隨て新入園兒も困る事と存じまして子供は、各々早く

自分の保母の顔を見覺へ、保母は、又自分の組の子供を覺える爲に年齢を以て、組分を致し置き、又、其組々に、依て、色分けをして、互に、知れ易くして居ります。假令へば一の組は、赤、二の組は、青、三の組は黄、四の組は緑といふ様にして各兒に、其組の色を以て、櫻の花形を切て、徽章の様にして、胸につけてやります。そうして、其花の裏面には、幼兒の姓名を記して置きます。幼兒は金鵝勳章でも、胸にかけた心持で、大層よろこびます。又保母の方でも子供と同色の徽章を着けて居ります。隨て、子供は自分の受持保母を知り易く保母は幼兒の姓名を記憶し易く、實に便利で御座います。

又入園當日は、無論附添人がありますが、組の徽章をつけてやる時に、明日からは、此徽章を附けて、一人で勇で来る人は強い人で、附添人と一緒に来る人は弱い人ですと話して置くと、大抵の子供は一人で、来る様に、なりますので、保護者の

方でも大いに喜んで居るやうです。

### 三、自然を待ちて

麹町區精華學校 幼童科 鈴木マサ

新入園兒の取扱ひ方に就き私共保母として、先づ第一に着手すべきことで、しかも中々困難なことは、幼兒の性質を調べることに、思ひます。本校では成るべく個性に注意して教育を施すことを主義として居りますから、幼兒に就ても入園當時には先づ全力を盡して個性の取調べに従事致します。それには色々の手段もありますが附添人に就て調べるに都合のよい事もあります。中流以上の家庭では幼兒の世話を乳婆又附添人に任せて居ります故、母親よりも附添人を慕ふやうになつてゐる子供も御座います。さういふ子供は長い間の習慣を急に破つて、保母と親しませるとはなかく困難で、逆も時を定めてすることは出来ません。或る

時は強て離さうとして骨を折つて見たこともございまして、割合に結果がよろしく御座いませんでした(下手と上手との違ひはありませうが)それ故この頃は家庭と共同して、なるべく自然に馴れる時を待ち、いつまでも子供とこんくらべをいたして居ります。其内には知らぬ間に少しづつ、馴れて、いつか友達と一緒に遊び、一人で室内に居れるやうになります。夫れ迄も保母はいつも其子供に對して一層注意して種々なる方法を以て導く様にするには誠に大切なことではございませうが大體に於て自然を待つ方法が一番成功いたしましたやうに感じました。其手段の一つとして可成子供に愉快を感じさせる様にすることが必要と存じます本校の幼稚園では舊入兒に新入兒を出來得る範圍に於て世話をさせとも遊ばせ、室内にて着席させる場合にも兄弟知友のあるものは同じ腰掛に當分の間腰掛させて、共同世話に馴れさせるやうにいたして居ります。

新入園兒は當分の間短時間保育することに大體定めて居りますが子供の要求に依つて間もなく一人二人づつ、辨當を持つて來させることにして、其れも隨意の方法で取扱つて居ります。

○「母様が入れて下さつたの」

安井哲子

母親として吾子を受愛せぬ者は御座いませませんが、中には家事繁忙の爲めに、子供に充分の注意が行届かず、止を得ず其世話を等閑にする者と、又萬事召使任せとして、母親は餘り吾子の世話をせぬ者とあります。私は近頃子供のお辨當に就いて面白い觀察を致して、副食物の種類や分量などに少しも注意を拂はぬ母親を見出す事があります。勿論中には質素の意味で、故らに子供に粗食をさせる方もありますが、私は此主義は養成は出來ませぬ。衣服は木綿でよろしいが、食物は充分注意して衛生に適つた物を與へたのであります。

私の實驗しました一人の兒童は、お辨當を樂しみにして、食事の時間が來ますと大喜びで、今日は何が入つてゐるであらうかと蓋を取るも玉子やら「おぼろ」やら色取美しく排列されてあります。につこり笑つて「母様が入れて下さつたの」とさき嬉しうに箸を取り、大きなお辨當に入つてゐる食物を、すつかり食べ下して、各兒にお辨當をこしらへて與へるそつてあります。「母様が入れて下さつたの」といふ子供の心には、母の慈愛が深く意識され、にこ／＼した顔には、實に無限の感謝が表はれて居ます。少しの注意でかくも子供は喜ぶ者を、母の不精から女申任せに何事も省みぬ母親の無情は、兒童に代つて私の恨めしく感ずる所であります。

(新女界)

# 談話資料

## ○金ちやんれお魚

松田 清

金ちやんは七つで、お父様とうさまがありません。お母さんと、姉あねさんは、他家のお洗濯せんたくをして、お金かねをいたいて、くらしています。今日けふも二人ふたりは水のたぐさん流ながれる川かはにいつて、よごれた、着物きものをチャブあく洗あらつています。

金ちやんは、そのそばで、美しい石いしを拾ひろつたり、砂すなの中から、出てくる蟹かにをつかまへたり、唱歌うたをうたひながら、遊あそんで居をりました。そしてだんく川下かはしもの方ほうにあるあるいて行ゆきました。すると、その草くさの上に腰こしを下おろして魚うしほを釣つつてるおぢさんがあります。長い竿ながさきの先さきに、糸いとをつけてその糸いとには鉤かりがついています。その鉤かりにお魚さかなのよろこぶミミツをつけて、水みづの中なかにいれてをきますと、やがてウキと云いふものが、ブク〜とうぎきます。それは

お魚さかながそのミミツをくはへて食たべやうと引ひく時ときなのです。おぢさんは占しめたとその竿さきを引ひきますと、糸いとの先さきに、お魚さかながピラ〜とついできます。

おぢさんはそのお魚さかなをとつて、わきのかごに入れ、また鉤かりのさきにミミツをつけてまた水みづの中なかになげ入いれます、やがてまた、ウキがブク〜と、うぎきます。おぢさんが竿さきを引ひいて、ピラ〜と上うへに上あるお魚さかなを鉤かりからとつてかごに入いれますどうも面白おもしろいこと〜。金ちやんは、何もかも、忘わすれて見みていけますと、またウキがブク〜、お魚さかながピラ〜、またウキがブク〜、お魚さかながピラ〜、おぢさんは、お魚さかなをかごに入いれてはまたつり、つてはかごに入いれ、金ちやんの見みているまに、そのかごが一つばいになりました。

おぢさんは、ニコ〜、よろこび顔かほでそのかごを下さげて、釣竿つりざしを、かついて、歸かへつて、ゆきました。そのあとで、魚さかなかごのあつたそばの草くさの上に、大おほきな美しい、お魚さかながピラ〜はねて居わるのを、金きん

ちやんが見つけました。

金「あ、これは、あのおぢさんが、釣つたのを落として入らしたのだ、そう、これから後をおつかけて、持つていつて、上げませう。」

金ちやんは、そのお魚を手にぶらさげて、一生懸命にかけだしました。おぢさんは、もうたいへん遠くまで、行つてしまいました。金ちやんがかけてゆきましたからとうとうおいつきました。ハア、いきをきりながら

金「おぢさん貴下のお魚を僕が持つてきて上げましたよ。」おぢさんはおどろいてふりむきました。がニコニコ笑ひながら、

お「これはよい子だ、ごほーびに、それもまた、もう一尾、別に、上げよう」

といつて、かごの中から外に一つだして、お魚二つを金ちやんに下さいました。金ちやんは、お禮をいつて、両方の手に、その魚をさげて、うちに歸りました。

うちでは、お母さんと姉さんと丁度川からたくさんの洗濯ものを、かごにかゝへて、歸つてきて、お夕飯の、お仕度のところでした。金ちやんのお魚は、すぐ煮て、三人で、おいしいお夕飯を、いたゞきました。(終り。)

## ○お山の火事

松 田 清

お山のなかに、只一軒、うちがあつて、きこりが住んでいました。そこには、太郎さんと、お花ちやん、のまだ小さい、二人の子が、ありました。ある日、その子供の、お父さんと、お母さんは町に御用があつて、出てゆきました。

お日様が西にかくれて、だん／＼夜になりましたが、そのお父さんとお母さんはなかくお歸りになりません。太郎さん、お花ちやんはお床に入つて、ねて終ひました。やがてゴ／＼バリ／＼と、妙な音がしますから、太郎さんは、おどろいて、

すぐにとびおきて外を見ました。

さあ大へんです。お山は一面の火になつて、いまにも、太郎さんのおうちも、やけそうです。杉でも、松でもみなゴ〜〜バリ〜〜やけてしまひます。まあおそろしい事でした。けれど太郎さんは、つよいお子さんですぐ妹の、お花ちゃんを、ゆりおこしました。

「大へんです、花ちゃんこゝに、グズ〜〜してると、やけ死にます、さあ早く」と、ねむい目をこすつて花ちゃんの手を引いて、うちをとびだし、火のない方に、にげだしました。だん〜〜にげてゆきますと、ウシロの方から「クク」「クク」とないてくるものがあります、それは毎日一緒に、遊んだ鶏でした。

よつほど、遠くまでにげて、山を下りて、ゆきまですと道のそばに、いはやがありました。丁度、風も入らないし、火もきません、夜つゆをしのぐにはよい窟でした。

太郎さんは、お花ちゃんと鶏をつれて、そこに入り、今夜はそこに寝る事にきめました。

太郎さんは羽織をぬいで、そこにしいて、お花ちゃんと、二人ねました、にはとりもわきにねました。

やがでコケコッコ、とにはとりの、なき聲に目をさまして、見ますと、もう夜はあけはなれて居ります。お花ちゃんは、目をさまして、お腹がすいたといつて泣きだしました。

太郎さんが困つて、あたりをみますと、まあよい事には、あのにとはとりが大きい卵をうんでいました。よろこんで、卵にあなをあけて、お花ちゃんに、のませました。お花ちゃんそれをのんでまたねむりました。

太郎さんは、ねているお花ちゃんと、にはとりに、おるすを、たのんで、お父さんと、お母さんを、さがしに出てゆきました。もうお山の火事はおしまいに、なつていました。



「お父さんお母さん」と太郎さんは、聲を限りによんで、あるきました。聲がつかれた頃、お山の中を心配しながらさがして、あるいてる、お父さんと、お母さんにあひました、

「お、太郎ではないか？」

「よくまあぶじでいました、」  
二人でかはるく抱いて頭を撫せました。

それから昨夜のやどにお父さんとお母さんを案内していろく御話しました。無事に寝てゐるお花ちゃんを御らんになつた時そのよろこびはどんなでしたらふ。そして太郎さんのかんしんな働きを御ほめになりました。(終り)

菓子盆にけし人形や桃の花  
ともし灯の用意や難の臺所  
ひな祭る都はづれや桃の月

(五元集)  
(千代)  
(蕪村)

雑報

○本會常集會 去月十八日本會常會は豫定の如く東京市小石川區竹早町なる東京府女子師範學校附屬幼稚園に於て開會せり、講師小林文學士は「社會と兒童との關係」に就いて有益なる講演あり、終つて別室に於て、茶菓を喫しつゝある間に前田同校主事の演説あり、次には遊戯室に於て有志の方々の遊戯交換などありて賑かに且面白く打ち過して午後五時頃散會を告げたり。當日出席者八十餘名頗る盛會なりき。

○聖心女學院附屬幼稚園の火災 去る二月十七日午後四時本會幹事武井綱技氏の管理さるゝ同幼稚園は祝融の災に罹られたり。本會よりの見舞に對し同氏の返書あり左に録す。

稚幼園出火の節は早速御見舞狀下されありがたくお禮申上候十七日金曜日午後四時三十分と覺し頃園の西北隅より發火見るとも全園は焼失いたし候出火としるや直ちにかけて候へとも其時は全園火にて入る事叶はずみすく焼け落ちるを傍觀いたしなり候次第にて一物をもとりいだす暇もなく唯わづかに私の部屋のもの少々とりいだしたるのみにて候然し幼児の歸園後に怪我等少しも無之候ひしは不幸中の幸と存じ候翌日より洋館の一部にて従前のごとく保育をいたし居り候まゝ他事ながら

御安心下され度し出火の原因等不詳に候とにかく火をとり消し候てより約二時間餘も過ぎたり候時間に候へとも御承知のことく藁屋根の極く古風なる建物にて候へは棟の落ち方非常にはやくそれに高臺の事とて水利あしく候ためにさしもの大建物をみすく機失したること残念に候とり込申基た略儀ながら手紙にて御禮申上候へ以下略)

二月十九日

フレーベル會御中

武井綱枝

○日本兒童研究會總會 同會にては本月卅、卅一兩日總會を開き、兒童研究の諸問題に關し、講演、展覽、參觀等ある筈。詳細は本號廣告欄及兒童研究三月號に就て知らるべく、會員にあらざる方々も欣んで歡迎せらるゝ由なれば、本誌讀者の方々も奮て御出席あらんことをお勧めす。

○正誤 前號「野猪の話」の中、野猪の足跡の圖は倒さになつて居りましたから一寸御斷り致します又同號「机邊だより」の中、桑田孔治氏譯「兒童心理學」とあるは桑野禪治氏譯の誤りに付同じく玆に御斷り申す。

又廣告中の女子手工教授法と同新圖集の定價とが間違つて居りましたから左の通り正します。

女子

手工新教授法

定價金四拾錢

女子

手工新圖集

定價金貳拾五錢

### 日本兒童研究會廣告

四八

明治四十四年三月東京に於て本會第六回總會を開く其順序概畧左の如し(參會隨意)

講演

三月三十日午後零時半より東京法科大學第三十二番講堂に於て

三月三十一日午後零時半より東京醫科大學精神病學講堂に於て

展覽

三月三十日午前九時より十二時まで東京文科大學心理學教室に於て兒童の讀物に關する陳列

參觀

三月三十日午後五時より三越吳服店內舉行の第三回兒童博覽會參觀

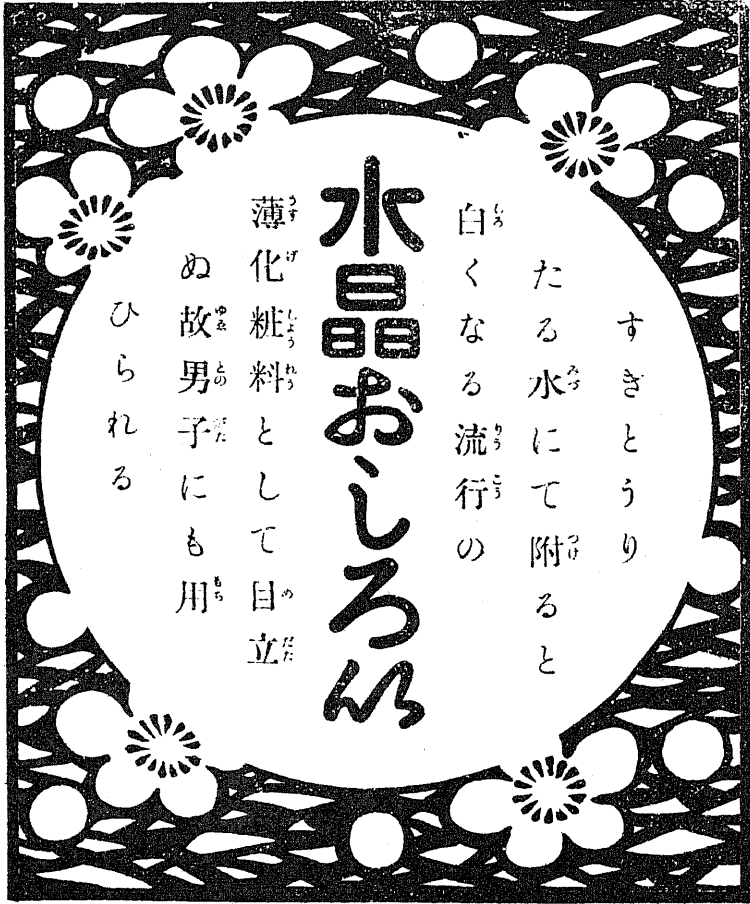
三月三十一日午前九時より、府下巢鴨村庚申塚瀧川學園參觀

宴會

三月三十日午後六時半より三越吳服店內食堂に於て開會

委細の次第書は、三月二十五日發行の『兒童研究』を見らるべし

明治四十四年二月廿五日 日本兒童研究會



水晶おしろい

すぎとうり

たる水にて附ると

白くなる流行の

薄化粧料として目立

ぬ故男子にも用

ひられる

本舖 東京 大和 屋

はに本日

如何いかなる白粉おしろいにも優まさり  
て自然せいぜん美びを最もっともも自然せいぜん  
的てきに助長じょちやうする  
クラブ白粉くらぶおしろいを有あせり



京橋區明石町卅七(電話京橋二二四)

# 聖路加病院

外科 ドクトル トイスラー

婦人科 醫學士 久保德太郎

内科 ドクトル プリス

内科 醫學士 堀内彌二郎

診察自午前八時至正午十二時入院隨時

最新式

「アセプチン」セメルケ  
搾乳術ヲ應用シタル

阪川  
衛生

牛乳

山羊

の乳を

召上れ

東京市

麹町區三丁目

阪川牛乳店

電話番町

六九九一七七





標商録登  
**MORIMYO**  
 妙守  
 妙家  
 振

最も光榮ある歴史を有する  
**風邪血の道薬**

●油斷大敵、風邪は萬病の本風邪たんせき婦人

血の道逆上腰冷寒さ暑さあたり、頭痛、めま

ひ、氣のふさぐには守妙に限る

●模偽物多し御求の節は必ず守妙即ち守田妙振

り出しと御名指を乞ふ

定 價  
 一帖入 金 五 錢  
 二帖入 金 拾 錢  
 六帖入 金 廿 錢  
 十二帖入 金 五 十 錢

東京上野池之端仲町廿七番地

寶丹 寶鋪 守田 治兵衛

●全國各藥店にて販賣す

東 京 九 段 中 坂 上  
フ レ ー ベ ル 館

營 業 課 目

幼稚園用恩物	幼稚園用材料	幼稚園用机腰掛	幼稚園用運動具	幼稚園用遊戲具	幼稚園用繪畫類	幼稚園用玩具類	幼稚園用書籍類	幼稚園用諸表簿類	家庭教育資料	學校用品類
--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	--------	-------

御 一 報 次 第 定 價 表 進 呈

◎新案シーソー 定價 四圓五十錢  
送費 遠近によりて異なる

室内或は室外に持運びの出来る最も輕便なるシーソーにして向ひ合つて腰を掛け自然に上下す市内多くの幼稚園に試みて好評噴々全部鋼鐵製螺旋止め

◎まげり人形

定價 四十錢  
送費 十二錢

一、製法、木製の盆形に十三ヶの凹所と八ヶの半環を付したる盤一ヶとセルロイド製にして斜面を轉る面白い人形一ヶよりなる

一、使用法 凹所に人形を滔らしめずして順次半環に人形を掛らしむるを目的とす

一、教育的價值

手指の練習と視覺の調節とを旨としたる練習的玩具にして併せて沈着努力の氣風を養ふ保存、興味、教育的價值の上に於て幼稚園には最も適したる玩具たるを信ず

明治四十四年三月一日印刷  
明治四十四年三月五日發行

編輯兼 東京市小石川區竹早町三四  
發行者 和田持直

印刷者

東京市本所區番場町四番地 守岡功

東京市本郷區元町三丁目六十六番地 發行所 フレーベル會